

3年5組 国語科学習指導案

男子 21名 女子 15名 計 36名
指導者 平 雄 造

1 単元名 夏草―「おくのほそ道」から

2 単元について

学習指導要領解説国語編の〔知識及び技能〕(3)我が国の言語文化に関する事項には、ア「歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむこと。」とある。つまり、歴史と古典を合わせ読み、そこに描かれる数百年前の人々の生き方や、考え方、価値観に対し、自分なりの意見をもつことが大切である。現代の日本人の考え方の根底には、古代から脈々と受け継がれる「日本人としての心」があることを知るために、古典作品が果たす役割は大きいと考える。

本学級の生徒は、これまでにいくつかの古典作品を学習してきた。今年の「平家物語」では、今回のテーマでもある「諸行無常」の考え方にも触れてきた。ただ、古典作品の学習に苦手意識を感じている生徒が多く、歴史的仮名遣いや古典特有の表現を避けて、内容を理解するまでに至らない傾向が見られる。また、学力差が大きく、グループの話合いでは特定の生徒の意見だけが取り上げられることが多い。

本時は、松尾芭蕉が平泉を訪れる場面を扱う。芭蕉は、500年前に義経たちが命を懸けた戦いの地が草むらとなっていることに、人の営みの儚さを感じている。しかし一方で、その中でも光堂を残そうとした人々の強い意志に希望を見出すのである。指導に当たっては、歴史的背景を十分に押さえた上で、二つの俳句を比較する。これにより、そこにある対照的な思いと、共通する思いに気付かせたい。そして、今なお続く日本人の感じ方・価値観等の美しさを味わう時間になりたい。

3 研修主題との関連

研修主題である「主体的で対話的な活動を通して、学びの深化・発展を図る生徒の育成」に関わり、今回は、生徒が学習活動の目的や方法を理解し、見通しをもって学習に取り組めるように、「おくのほそ道学習冊子」を作成する。また、単元を通じて音読の指導を繰り返すことによって、基礎的・基本的な知識の定着を図る。さらに、本時は、既習事項である俳句の読み取りの知識や歴史的背景を押さえることで、芭蕉が感じたことに対する理解が深まるように支援していきたい。また、生徒が個人の考えを書く時間、話し合って意見を深める時間、学びを振り返る時間をしっかりと確保し、学習のねらいに迫りたいと考える。

4 全体計画(6時間)

- (1) 古文1を正確に音読し、内容を理解する・・・・・・・・・・2時間
- (2) 芭蕉の「旅」に対する思いを読み取る・・・・・・・・・・1時間
- (3) 古文2の歴史的背景を知り、内容を理解する・・・・・・・・・・2時間
- (4) 二つの俳句を比べ、平泉で芭蕉が考えたことを捉える・・・・・・・・1時間(本時)

5 本時の学習

(1) 目 標

二つの俳句に込められた芭蕉の思いを比較することにより、芭蕉が平泉で考えたことを捉えることができる。

(2) 展 開

学習活動と予想される生徒の反応	指導上の留意点（◇評価規準）	配時
○芭蕉は何を目にしたのか確認する。 ・平泉の風景。草原。 ・中尊寺の経堂と光堂（金色堂）。	・前時のワークシートを確認させる。	2分
芭蕉は平泉で何を感じたのか。～二つの俳句を比較して～		
○二つの俳句について確認する。 Ⅰ「夏草や兵どもが夢の跡」 Ⅱ「五月雨の降り残してや光堂」	・ 歴史的背景や本文・俳句の内容については前時まで確認しておく。	5分
○課題について個人で考え、ワークシートに記入する。 ・Ⅰでは時の流れの中における人の儂さに思いを馳せたが、だからこそ、Ⅱでは、その中でもいつまでも金色堂を残そうとした人々の思いや努力、希望を見出すことができた。 ・Ⅰでは人の儂さを感じて涙を流したが、Ⅱでは自分たちの大切なものを残そうとした人々の思いを感じている。	・切れ字「や」や、本文の「時のうつるまで、涙を落としはべりぬ」「しばらく千歳の記念とはなれり」という記述に注目させる。 ・困っている生徒には、それぞれの俳句に込められた思いを書くように助言する。 ・ 十分に書く時間を確保する。 ・ 活動にあたり、書く時間と話す時間の区別をしっかりとつける。	10分
○グループで話し合う。	・互いの意見をまとめるように伝える。	15分
○グループの意見を発表し、共有する。		13分
○本時のまとめを「旅日記」としてワークシートに記入する。	◇ 【知識・技能】 2つの俳句に込められた芭蕉の思いを比較することにより、芭蕉が平泉で考えたことを捉えている。（ワークシート） ・理解が深まらない生徒には補助発問をして理解が深まるようにする。	5分

(3) 視 点

学習冊子の作成、及び活動時間の確保は、生徒が見通しをもって学習に取り組む、理解を深めるために有効であったか。